(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 4年 6月 30日

愛知県知事殿

提出者

住 所 東京都千代田区神田美土代町1番地

氏 名 青木あすなろ建設株式会社 東京建築本店 常務執行役員本店長 江島 泰

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 03-5439-8523

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他 その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事	業	場	<u>l</u>	か	名	称	青木あすなろ建設株式会社 名古屋支店
事	業	場	の	所	在	地	愛知県名古屋市中川区月島町 6-1
計		画		期		間	令和4年4月1日~令和5年3月1日(1年間)
当該	亥事美	美場!	こお	いて	現に	行っ	っている事業に関する事項
	1	事	業	の	種	類	D 建設業 [6-総合建設業]
	2	事	業	の	規	模	全社:78,900 百万円 名古屋支店:1,627 百万円
	3	従	業	Ě	員	数	全社:1,042 人 名古屋支店:13 人
			発棄の工) 一道	車の	別途①の通り

(日本工業規格 A 列 4 番)

産	業廃棄物の処理に係る行 (管理体制図)	管理体制に関する事項		
	別紙②のとおり			
産	 業廃棄物の排出の抑制!	 こ関する事項		
	·	【前年度(平成3年度)実績】	
		産業廃棄物の種類	汚泥	 廃プラスチック類
		排 出 量	— t	67. 30 t
	①現状	際には引き続き再生		極活用に努め、排出するた。
		【目標】		
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
		排 出 量	<u> </u>	63. 00 t
	②計画	報交換を行う事によ	用を継続するとともに、	他現場(作業所)との情 :用に努める。また、排出 努める。
産	業廃棄物の分別に関する	る事項		
		(分別している産業廃	棄物の種類及び分別に関	 する取組)
	①現状		くず及び金属くずは、そ し、分別に努めている。	れぞれの発生現場に専用
		(今後分別する予定の	産業廃棄物の種類及び分	別に関する取組)
	②計画	建設混合廃棄物の発 努める。	生現場で分別を徹底し、	再生資源化の効率向上に

自	ら行う産業廃棄物の再生	生利用に関する事項				
		【前年度(平成3年度	E)実績】			
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類		
	①現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t		
		(これまでに実施した	上取組)			
		これまで自社で再生	E利用を行ったことはなV) 。		
		【目標】				
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類		
	②計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t		
		(今後実施する予定の)取組)			
		引き続き自社で再生	三利用を行う予定はない。			
自	ら行う産業廃棄物の中間	間処理に関する事項				
		【前年度(平成3年度)実績】				
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類		
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t		
	①現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t		
		(これまでに実施した	上取組)			
		これまで自社で中間	引処理を行ったことはな\	`		
		【目標】				
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類		
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t		
·	②計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t		
		(今後実施する予定の)取組)			
		引き続き自社で中間	見処理を行う予定はない。			
	l	l .				

1	前年度(平成3年度)		L. G.
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
· *	自ら埋立処分又は 詳投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	_
	これまでに実施した取これまで自社で埋立処	組) 分または海洋投入をお	こなったことはない。
1	目標】		
<u>jā</u>	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
i i	自ら埋立処分又は 毎洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	
	前年度(平成3年度)		
<u> </u>	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
<u> </u>	全処理委託量	— t	67. 30
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	45. 60
	再生利用業者への 処理委託量	— t	67. 30
	処理委託量	— t	0
犬		— t	25. 40
^	熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量		
4	再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量 認定熱回収業者以外の	— t	

(第5面)

		【目標】		
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
		全処理委託量	— t	63. 00 t
		優良認定処理業者への 処理委託量	— t	50.00 t
		再生利用業者への 処理委託量	— t	63.00 t
		認定熱回収業者への 処理委託量	— t	0 t
②計画		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	30.00 t
)取組) ぶできる業者への委託を行 世業者への委託を優先して	
※事務処理欄	П			

産	業廃棄物の処理に係る管 (管理体制図)	き理体制に関	する事項		
	別紙②のとおり				
産	 業廃棄物の排出の抑制!	 こ関する事項			
		【前年度(五	平成3年度	E) 実績】	
		産業廃棄物	の種類	紙くず	 木くず
		排出	量	24. 10 t	23. 90 t
	① 現状	際には引き	目や他現場	:取組) 景で発生した再生資源の積極 E資源化施設の活用に努め†	
		【目標】	1		
		産業廃棄物		紙くず	木くず
		排出	量	22. 00 t	22. 00 t
	②計画	報交換を行	の現場内和 行う事によ)取組) 川用を継続するとともに、他 にり、効率的な再生資源活序 : 再生資源化施設の活用に勢	用に努める。また、排出
産	業廃棄物の分別に関する	5 事項			
		(分別してい	へる産業原	産棄物の種類及び分別に関 す	ナる取組)
	① 現状			てくず及び金属くずは、それ 置し、分別に努めている。	いぞれの発生現場に専用
		(今後分別)	する予定の	産業廃棄物の種類及び分別	川に関する取組)
	②計画	建設混合原 努める。	廃棄物の発	巻生現場で分別を徹底し、車	写生資源化の効率向上 に

自	ら行う産業廃棄物の再生	生利用に関する事項		
		【前年度(平成3年度	三) 実績】	
		産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	① 現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
		(これまでに実施した	取組)	
		これまで自社で再生	利用を行ったことはない。	0
		【目標】		
Ì		産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	②計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
		(今後実施する予定の	取組)	
		引き続き自社で再生	利用を行う予定はない。	
自	し ら行う産業廃棄物の中間	□ 間処理に関する事項		
		【前年度(平成3年度	三)実績 】	
		産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	① 現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
		(これまでに実施した	取組)	
		これまで自社で中間	別処理を行ったことはない。	0
_		【目標】		
		産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
Ţ		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	②計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
		(今後実施する予定の	取組)	
		引き続き自社で中間	処理を行う予定はない。	

	【前年度(平成3年度)	実績】	
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
① 現状	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	_
	(これまでに実施した取これまで自社で埋立処	組) 分または海洋投入をおこれ	なったことはない。
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	_
業廃棄物の処理の	委託に関する事項		
	【前年度(平成3年度)		+1.4
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	産業廃棄物の種類	紙くず	23. 90
	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への	紙くず 24.10 t	23. 90 23. 90
① 現状	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量	紙くず 24.10 t 24.10 t	23. 90 23. 90 23. 90
① 現状	産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量	紙くず 24.10 t 24.10 t 24.10 t	木くず 23.90 23.90 23.90 0 14.90

(第5面)

	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	全処理委託量	22. 00 t	22. 00 t
	優良認定処理業者への 処理 委託 量	22.00 t	22. 00 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	22.00 t	22.00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	10.00 t	18.00 t
)取組) ぶできる業者への委託を行 理業者への委託を優先して	
※事務処理欄			

(管理体制図)	工係る管理体制に関する事項		
(官理仲間凶)			
別紙②のとおり			
業廃棄物の排出の	抑制に関する事項		
	【前年度(平成3年度)	実績】	
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くす
	排 出 量	101. 70 t	70. 10
			責極活用に努め、排出す oた
	際には引き続き再生資		
	際には引き続き再生資	源化施設の活用に努め	った。
	際には引き続き再生資		
②計画	際には引き続き再生資 【目標】 産業廃棄物の種類 排 出 量 (今後実施する予定の取 再生資源の現場内利用	源化施設の活用に努め 金属くず 95.00 t 組) を継続するとともに、 、効率的な再生資源活	がラス・陶磁器くす がラス・陶磁器くす 65.00 他現場(作業所)との 新用に努める。また、排
	際には引き続き再生資 【目標】 産業廃棄物の種類 排 出 量 (今後実施する予定の取 再生資源の現場内利用 報交換を行う事により する際には引き続き再	源化施設の活用に努め 金属くず 95.00 t 組) を継続するとともに、 、効率的な再生資源活	がラス・陶磁器くす がラス・陶磁器くす 65.00 他現場(作業所)との 新用に努める。また、排
	際には引き続き再生資 【目標】 産業廃棄物の種類 排 出 量 (今後実施する予定の取 再生資源の現場内利用 報交換を行う事により する際には引き続き再	源化施設の活用に努め 金属くず 95.00 t 組) を継続するとともに、 、効率的な再生資源活 生資源化施設の活用に	がラス・陶磁器くす 65.00 他現場(作業所)との 活用に努める。また、排 で努める。
業廃棄物の分別に	際には引き続き再生資 【目標】 産業廃棄物の種類 排 出 量 (今後実施する予定の取 再生資源の現場内利用 報交換を行う事により する際には引き続き再 (分別している産業廃棄	源化施設の活用に努め 金属くず 95.00 t 組) を継続するとともに、 、効率的な再生資源活 生資源化施設の活用に ず及び金属くずは、そ	がラス・陶磁器くす 65.00 他現場(作業所)との 活用に努める。また、排 で努める。
②計画 業廃棄物の分別に ② 現状	際には引き続き再生資 【目標】 産業廃棄物の種類 排 出 量 (今後実施する予定の取 再生資源の現場内利用 報交換を行う事により する際には引き続き再 (分別している産業廃棄 廃プラスチック、木く	源化施設の活用に努め 金属くず 95.00 t 組) を継続するとともに、 、効率的な再生資源活 生資源化施設の活用に ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	がラス・陶磁器くす 65.00 他現場(作業所)との 所に努める。また、排 である。

ら行う産業廃棄物	の再生利用に関する事項		
	【前年度(平成3年度)	実績】	
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
② 現状	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	_
2 H1/	(これまでに実施した取 これまで自社で再生利	A組) J用を行ったことはなV	N _o
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
②計画	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	_
	(今後実施する予定の取	z,組)	
	引き続き自社で再生利	用を行う予定はない。	
 ら行う産業廃棄物	の中間処理に関する事項		
	【前年度(平成3年度)	実績】	
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	
② 現状	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	_
	(これまでに実施した取	双組)	
	これまで自社で中間処	↓理を行ったことはなレ゙	N _o
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	_
②計画	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	
	(今後実施する予定の取 引き続き自社で中間処		

自ら行う産業廃棄物	nの埋立処分又は海洋投入処分に	関する事項	
	【前年度(平成3年度)	実績】	
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
② 現状	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取これまで自社で埋立処	組) 分または海洋投入をお	こなったことはない。
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
産業廃棄物の処理の	引き続き自社で埋立処)委託に関する事項 【前年度(平成3年度)		う予定はない。
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	全処理委託量	101. 70 t	70. 10 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	101. 70 t	38. 50 t
	再生利用業者への 処理 委託 量	101. 70 t	70. 10 t
② 現状	認定熱回収業者への 処理 委託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	9. 60 t	17. 50 t
	(これまでに実施した取 再生利用が可能な品目 る。		る処理業者に委託してい

(第5面)

	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	全処理委託量	95.00 t	65. 00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	95.00 t	57. 00 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	95.00 t	65. 00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	45.00 t	35. 00 t
	引き続き再生利用カ	(今後実施する予定の取組) 引き続き再生利用ができる業者への委託を行っていく。 また、優良認定処理業者への委託を優先してすすめる。	
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係 (管理体制図)				
(官埋体制図)	る官理仲制に関う	10争坦		
別紙②のとおり				
777/194(2) 40 0				
	 p制に関する事項			
	【前年度(三	 F成 3 年度)	宝績】	
				74-31.3H 스 로 호 비
	産業廃棄物		がれき類	建設混合廃棄物
	排出	量	2111. 15 t	58. 37
①現状	(これまで)	こ実施した取	:組)	
	現場内利用	月や他現場で	発生した再生資源の積	極活用に努め、排出する
	際には引き	き続き再生資	源化施設の活用に努め	た。
	【目標】			
	産業廃棄物	の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	排出	量	2000.00 t	55. 00
	(今後宝施)	 よろ予定の取	·····································	
②計画	(今後実施する予定の取組)			
②計画			\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
②計画	再生資源の	り現場内利用		他現場(作業所)との
②計画	報交換を行	亍う事により	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活	用に努める。また、排
②計画	報交換を行	亍う事により	を継続するとともに、	用に努める。また、排
②計画	報交換を行	亍う事により	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活	用に努める。また、排
	報交換を行する際には	亍う事により	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活	用に努める。また、排
②計画 	報交換を行 する際に する事項	テう事により は引き続き再	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活 生資源化施設の活用に	用に努める。また、排 努める。
産業廃棄物の分別に関	報交換を行 する際に する事項	テう事により は引き続き再	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活	用に努める。また、排 努める。
	報交換を行 する際に 引する事項 (分別して)	テう事により は引き続き再	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活 生資源化施設の活用に 生資源化施設の活用に	用に努める。また、排放 努める。 する取組)
産業廃棄物の分別に関	報交換を行 する際に する事項 (分別してい 廃プラスラ	テう事により は引き続き再 いる産業廃棄 チック、木く	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活 生資源化施設の活用に 生資源化施設の活用に	用に努める。また、排放 努める。 する取組)
産業廃棄物の分別に関	報交換を行する際には する事項 (分別してい 廃プラスラ	テう事により は引き続き再 いる産業廃棄 チック、木く ナ類を設置し	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活 生資源化施設の活用に 物の種類及び分別に関 ず及び金属くずは、そ	する取組) れぞれの発生現場に専り
産業廃棄物の分別に関	報交換を行する際には する事項 (分別してい 廃プラスラ のコンテラ (今後分別で	テう事により ま引き続き再 いる産業廃棄 チック、木く ナ類を設置し する予定の産	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活生資源化施設の活用に 生資源化施設の活用に 物の種類及び分別に関 ず及び金属くずは、そ 、分別に努めている。 業廃棄物の種類及び分	用に努める。また、排放 努める。 する取組) れぞれの発生現場に専り 別に関する取組)
産業廃棄物の分別に関 ①現状	報交換を行する際には する事項 (分別してい 廃プラスラ のコンテラ (今後分別で	テう事により ま引き続き再 いる産業廃棄 チック、木く ナ類を設置し する予定の産	を継続するとともに、 、効率的な再生資源活生資源化施設の活用に 生資源化施設の活用に 物の種類及び分別に関 ず及び金属くずは、そ 、分別に努めている。 業廃棄物の種類及び分	用に努める。また、排品努める。 対して、

【前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取	がれき類 — t	建設混合廃棄物 一 t		
自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取	— t			
産業廃棄物の量 (これまでに実施した取		— t		
	(組)			
これまで自社で再生利				
	これまで自社で再生利用を行ったことはない。			
【目標】				
産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物		
自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t		
(今後実施する予定の取	(組)			
引き続き自社で再生利	用を行う予定はない。			
中間処理に関する事項				
【前年度(平成3年度)	実績】			
産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物		
自ら熱回収を行った	— t	— t		
産業廃棄物の量	— t	— t		
(これまでに実施した取	(組)			
これまで自社で中間処理を行ったことはない。				
産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物		
自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t		
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t		
(今後実施する予定の取	(組)			
 引き続き自社で中間如	理を行う予定はない			
JIC MIC LI LE CTIMA				
	産業廃棄物の種類 自ら再生利用を行う 産業廃棄物の種類 (今後実施する予定の取りき続き自社で再生利 可と関する事項 (前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類 自ら熱原産業物の量した 産業廃棄物の量した 産業廃産を行の量した 産業廃産をでにまりが重した。 これまで自社で中間処 【目標】 産業廃棄物の種類 自ら料のの量したで自知のでいまする 自ら中間処理によりが重する 産業廃棄物の種類 自ら半間処理によりが重する 産業廃棄物の種類 自ら半間処理によりが重する 産業廃棄物の 自ら中間処理によりが重する 産業廃棄物の 自ら中間処理によりが重する 産業廃棄物の 自ら中間処理によりが重する 産業廃棄物の 自ら中間処理によりが重する 産業廃棄物の 自ら中間処理によりが重する 産業廃棄物の 自ら中間処理によりが重する 産業廃棄物の 自ら中間処理によりが重する 産業を実施する予定の取り	産業廃棄物の種類 がれき類 自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組) 引き続き自社で再生利用を行う予定はない。 中間処理に関する事項 【前年度(平成3年度)実績】 産業廃棄物の種類 がれき類 自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理を行ったことはない。 【目標】 産業廃棄物の種類 がれき類 自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量 がれき類 自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量 がれき類 自ら熱回収を行う 一 t 世 自ら中間処理により減量する ー t		

	【前年度(平成3年度)実績】			
①現状	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	_	
	(これまでに実施した取組) これまで自社で埋立処分または海洋投入をおこなったことはない。			
	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物	
②計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	_	
業廃棄物の処理	の委託に関する事項 【前年度(平成3年度)	実績】		
業廃棄物の処理の		実績】	建設混合廃棄物	
業廃棄物の処理	【前年度(平成3年度)			
業廃棄物の処理	【前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類	がれき類	58. 37	
業廃棄物の処理	【前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量	がれき類 2111.15 t	58. 37 33. 40	
業廃棄物の処理の	【前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量	がれき類 2111. 15 t 109. 70 t	建設混合廃棄物 58.37 33.40 58.37	
	【前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への	がれき類 2111. 15 t 109. 70 t 2111. 15 t	58. 37 33. 40 58. 37	
	【前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量	がれき類 2111. 15 t 109. 70 t 2111. 15 t 0 t 61. 40 t	58. 37 33. 40 58. 37	
	【前年度(平成3年度) 産業廃棄物の種類 全処理委託量 優良認定処理業者への 処理委託量 再生利用業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量 認定熱回収業者への 処理委託量 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	がれき類 2111. 15 t 109. 70 t 2111. 15 t 0 t 61. 40 t	58. 37 33. 40 58. 37 0 28. 10	

(第5面)

		【目標】		
		産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	全処理委託量	2000.00 t	55.00 t	
		優良認定処理業者への 処理委託量	510.00 t	45. 00 t
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	2000.00 t	40.00 t
		認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
②計画	画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	100.00 t	20.00 t
		(今後実施する予定の取組) 引き続き再生利用ができる業者への委託を行っていく。 また、優良認定処理業者への委託を優先してすすめる。		
※事務処	理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成 工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規 模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量とび認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



